

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1272100304
法人名	社会福祉法人 康徳会
事業所名	グループホーム あかしや
所在地	千葉県習志野市東習志野3-12-1 (電話) 047-475-3030

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2007/11/29

【情報提供票より】(平成19年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	20 人	常勤	12人, 非常勤 8人, 常勤換算 16.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 無 70,000円)	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	850 円
	夕食	650 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央総合病院
---------	-----------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

造りがしっかりしている3階建ての建物で、1階部分にデイサービスが併設されており、入居者及び地域の方々との交流の場となっていると共に、地域に根ざした運営がなされている。施設内は明るくゆったりとした空間になっており、適切な装飾や生活用品の配置により家庭的な雰囲気が感じられる。職員は共同生活を意識したサービス提供に努めており、本人の能力や意向をしっかり配慮した支援を行っている。ユニット間の交流により、全職員と全入居者が面識を持ち、信頼関係の構築に努めている。協力病院との連携がしっかりしており、急変時や看取りの対応を含めた医療的支援が迅速かつ確実に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では地域交流の促進・家族会の開催・共有空間における個性が改善課題としてあげられた。地域交流については地域行事への参加やボランティア等の受け入れなど積極的に行っている。家族会の開催は実施されていないが前向きに検討中である。共有空間はソファの向きを変えて個性が確保されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が個々に自己評価票を作成し、評価の意義を理解すると共に業務に対する気付きを大切にしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の関係者を構成員として、2ヶ月に1回確実に運営推進会議を開催している。法人の理事が現在も町内会の役員を続けており、地域の方々も協力的である。会議においては施設運営に関する報告や意見交換が行われており、地域の施設理解とサービス向上に向けた課題の検討に努めている。市との連携については、日頃から情報交換を行い適切な業務運営を心がけている。また、法人の理事2名が社会福祉協議会の地区支部長及び評議員になっており、市との協力体制の構築に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者・専務理事・第三者委員が苦情の受付窓口になっている。意見や要望等については随時確認しており、適切なサービス提供に努めている。現在、家族会の開催を検討しており、職員及び家族間の意見交換を通して更なるサービスの向上を図りたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の町内会、婦人会ボランティアや中・高校生の体験学習等の受け入れを日頃から行っている。また、地域行事にも参加しており、地域との交流促進に努めている。災害時における地域との協力体制も構築されている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「あかしや信条六原則」を掲げており、信頼と安心の施設づくりを目指している。現在、グループホーム独自の理念も検討されており、適切な共同生活のあり方を主眼とした内容が構築されている。		独自の理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を付加し、さらなる地域生活の継続支援と地域との関係性の強化を目指していただくことを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲示し、周知・意識の徹底を図っている。また、定期的なミーティング等により理念の確認とケアに関する考え方の指導を行い、適切なサービス提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りやカラオケ大会等の地域行事に参加している。また、地域のボランティアの受け入れを積極的に行っており、歌・フラダンス・オカリナ・大正琴等の活動協力を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価票を作成し、業務課題の抽出を行っている。また、外部評価のガイドブックを併用し、評価項目の意義の理解に努めている。評価結果に対しては、前向きに捉えて職員全員で検討し、サービス内容の改善に繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族・施設職員をはじめとして地域の民生委員・町内会役員・住人や市の地域ケアステーション・法人役員等を構成員として2ヶ月に1回確実に会議を開催している。会議においては施設運営に関する報告や意見交換が行われており、地域の施設理解とサービス向上に向けた課題の検討に努めている。		

【千葉県】グループホーム あかしや

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の理事が社会福祉協議会の評議員になっており、市との協力体制を構築している。日頃から情報交換を行い適切な業務運営を心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ニュースレターを発行し、施設全体の取り組みや入居者個人の生活状況が写真入りで報告されている。また、職員の紹介も同時になされている。家族への伝達事項が入居者ごとにファイルされており、面会時に確実に報告されている。記録も整備されており職員全員で内容を共有している。お小遣いや通院費等の金銭管理については2ヶ月に1回報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・専務理事・第三者委員が苦情の受付窓口になっている。開設してから特に苦情はあがっていないが、意見や要望等については家族の面会時や運営推進会議で必ず確認しており、適切なサービス提供に努めている。今後は家族会の開催を検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	両ユニットの日頃の交流により、職員と入居者全員の信頼関係が構築されており、異動による影響はほとんどない。新人職員については、リーダー職員が1ヶ月間一緒について業務を行い、入居者との馴染みの関係を築いている。退職者については個別に対応して了承を得ており、生活に影響が出ないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職員全員が参加しており個々の質の向上が図られている。また、職員会議において研修報告を行い職員全員に内容を周知して現場のケアに活かしている。内部研修についてはリーダー職員が主となり認知症ケアの教育等を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加しており、情報交換等を行い、相互の施設運営に活かしている。今後は勉強会や施設間での職員交換体験等を実施し、更なるサービス向上を目指していきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人及び家族との面接を行い生活状況やニーズを把握している。体験入居を行ってから正式に入居してもらうこともあり、安心して生活が始められるよう配慮されている。また、馴染みのものを多く持ち込んでもらい、在宅に近い生活環境がつけられるようにしている。生活に馴染めるように職員と家族が協同で日々の対応を考えている。他の入居者との関係づくりにも職員全員が配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共同生活を意識し、入居者と職員が支えあいながら生活活動を行っている。入居者からは調理・植栽・昔の話・省エネ等多くの面で指導を得ることがあり、職員の学びに繋がっている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>身体状況や生活暦を確実に把握した上で、日々の生活支援を行っている。職員は常に本人の思いや暮らし方の希望に耳を傾けており、日々のミーティングで情報を共有しながら意向を反映した支援が出来るように努めている。把握が困難な場合は本人の表情や置かれている状況全体を汲み取って対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の身体状況や生活暦及び家族の希望を把握した上で、職員全員で検討しながら計画を作成している。日々の対応記録の積み重ねにより、各職員の気付きを加味しながらその人らしい生活ができる支援内容になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員全員が介護計画を意識した上で日々の支援を行い、それぞれの気付きや思いを記録している。その上で現状に即した計画内容になるように、家族の意向を含めて全体で見直しを行っている。</p>		

【千葉県】グループホーム あかしや

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の身体状況に合わせて併設しているデイサービスの機械浴槽の利用が可能である。希望に応じて行きつけの美容室やカラオケ教室・知人宅等への付き添いを行っている。平成20年1月1日からはショートステイの受け入れを開始する予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を中心として受診の支援をしているが、基本的には本人及び家族の希望によりかかりつけ医を決めており柔軟に対応している。特に協力病院との連携がしっかりしており、急変時の対応が迅速である。また、担当医により2週間に1回の訪問診療を行っている。受診支援は主に職員が行っており、受診記録・受診前後の家族への報告がしっかりなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期に向けた施設の指針が作成されており、入居時に家族の同意を得ている。看取りについては本人の状況や家族の希望により、施設として可能な範囲で対応している。早い段階から家族及び協力病院と相談し、職員全員で対応を共有している。また、協力病院とは毎日連絡を取り合いながら、最善の対応を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等については書庫に保管している。個人情報については職員全員に誓約書を取り、保護の徹底を図っている。言葉かけについては対応方針を施設内に掲示して職員全員に周知しており、丁寧な言葉かけを心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課のない生活を心がけており、入居者の意向に沿いながら自由に過ごしてもらっている。本人の希望に応じて掃除や洗濯等を協同で行ったり、体操・トランプ・作品づくり等のレクリエーションを行っている。		

【千葉県】グループホーム あかしや

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に献立を作成しており、個人の希望が反映されている。また、個々の嚥下機能や嗜好に合った食事提供がなされている。食材の買物や食事づくりも協同で行っている。定期的に外食の機会も設けており、食事が楽しみの時間になるように配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調を配慮して1週間に3回入浴を実施している。入浴できない場合は清拭や足浴を行い、清潔の保持を図っている。入浴を拒む入居者については、個別に言葉かけを工夫したり入浴時間を変更して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望や能力に応じて、洗濯や調理等の家事や畑での作物の植栽を行っている。また、ぞうきん縫いやランチョンマット・装飾物等の作品づくりや書道等を日常的に行っている。毎朝リハビリ体操や併設しているデイサービスのスペースを活用して、個別にリハビリを実施している。その他スクリーンを使用しての映画上映やカラオケ等を実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や天候に応じて、随時、散歩や買物を行っている。また、定期的に外出会や外食会を企画・実施し、外出が楽しみになるように支援している。外出時の楽しい様子が写真入のニュースレターで家族に報告されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や窓の鍵を掛けないことが施設の方針であり、ドアベルの設置や職員の適切な見守り対応により自由な暮らしを支援している。また、居室のドアには鍵は設置していない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署との協同により非難・消火・通報訓練を実施している。また、緊急時対応マニュアルが作成されていると共に、施設内に緊急通報装置が設置しており、災害時の対策がしっかりなされている。運営推進会議での協議により地域との協力体制も構築されている。災害時の備蓄の確保については現在検討中である。		

【千葉県】グループホーム あかしや

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設しているデイサービスの管理栄養士と相談しながらメニューを作成し、栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。食事及び水分の摂取記録により職員が情報を共有しており、各入居者に合わせた対応により栄養が確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは前面バリアフリーで、採光も良く明るくゆったりとしており、季節に合わせた装飾もなされていて、あたたかみのある空間となっている。ソファの場所や向きなどに配慮しており、一人になれる空間も確保している。広いベランダには花壇やベンチがあり、気分転換やつろぎの場所となっている。また、バーベキュー等も実施されており、共同の楽しみの場所にもなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みのものを持ち込むことが可能であり、居心地よく安心して生活ができるようになっている。全居室にエアコンが設置してあり空調も適切に行われている。		